

様式1

令和6年度 学校評価表

学校教育目標		凛とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成												
a ミッション		学びを探究し、未来を“そうぞう”する生徒の育成				a ビジョン		職員が笑顔で生徒の前に立てる学校 ○生徒が安心して学べ、確実に力を付けることができる学校 ○保護者や地域から信頼され、任せてもらえる学校 ○教職員がやりがいと喜びをもち、笑顔で取り組める学校				尾道市立長江中学校		
評価計画						自己評価					学校関係者評価		改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
主体性・協働性を育む探究的な学習の継続・発展	○学習内容の確実な定着及び活用 ・知的好奇心を喚起させる指導方法の工夫 ・新たな価値観を見いだせる授業づくり	・各教員、「探究」「各教科」において、年1回以上の研究授業、1単元以上の単元開発（ブラッシュアップ等）の実施 ・小中連携教育の意義について理解し、積極的に各小中学校の研究授業に参加 ・小中の接続を意識し、9年間を見通した総合的な学習の時間の単元開発（ブラッシュアップ等）	①生徒アンケートの「授業では解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』』旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（令和5年度：85%）	①90%	①92.9		103.2	A	①「主体性・協働性を育む探究的な学習の継続・発展」を目指し、各教科において知的好奇心を喚起させる指導方法を工夫している。とりわけ一学期は課題設定の工夫を通して、生徒の達成意欲を喚起させる取組を進めてきた。今学期2回実施された研究授業においても、課題設定の工夫にこだわり、授業後の協議等で他の教員とも共有することができた。目標値以上の肯定的な回答を目指し、学校全体で教育研究をさらに進めていく。 ②一学期は土堂小中学校で行われた研究授業に8名の教職員が参加した。今年度中に全ての教職員が3校の小中学校の研究授業に参加し、学んだことを本校の教育実践につなげていく。 ③一学期は1学年が、総合的な学習の時間の校内授業研究を実施した。二学期に2学年、3学年が校内授業研究を実施することを計画している。	○		各教科において、指導方法に工夫が見られる。学校の取組が、学力向上につながっていると考える。また先生方が、生徒に丁寧に向き合っていることが分かる。小中学校との連携も進んでおり、良いと思う。	①目標値に向けて、さらに研究を継続・発展させていく。また、研究授業だけではなく、日々の授業の中で、「主体性・協働性を育む探究的な学習」ができるように、教材研究を進めていく。 ②校区内における小中連携や、久保中学校との中連携をさらに推進していく。各校の研究主任の連携を通して、小中で一貫した指導ができるように、取り組んでいく。 ③校内授業研究において、大学教授を招聘し、実践的な研修を実施する。小中9年間の研究を通して、総合的な学習の時間における授業の質を高めていく。	
			②各小中学校（3校）の研究授業に参加する教員の割合	②100%	② 47.1		47.1	「学習研究の推進」 「評価結果の向上」 「評価結果の向上」						
			③9年間を見通した総合的な学習の時間の校内授業研究の実施の割合（学期に1回以上の実施）	③100%	③ 33.3		33.3							
人間力を高める教育実践	○「長江プライド」を持ち、教職員と生徒による「学びの風土づくり」の徹底と深化を通した生徒の自己肯定感の向上	・生徒が主体的に企画する活動（挨拶運動や地域貢献活動等）への支援 ・生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施	①生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（令和5年度：87%）	①90%	①87.2		96.8	B	①生徒アンケート「友だちや先生に会ったら、自分から挨拶しています」における肯定的な回答が80%。「地域の方に会ったら、自分から挨拶しています」は77%であった。毎日の授業や部活動、学校行事等において、挨拶を徹底させ、生徒に挨拶を行う意味や意義を理解させ、挨拶を習慣化させていく。 ②教師は授業や部活、行事等を通して、挨拶をするように指導している。ただし、「生徒が自ら進んで挨拶をする」というところが不十分であると分析している。 ③今年度、全学年において、良好な人間関係づくりを促進する活動プログラム「SAFプログラム」を実施した。本プログラムや学校生活のあらゆる場面を通して、生徒の主体性や協働性、コミュニケーション能力の育成につなげていく。 ④③と同様に、自分の良さを自分で認識し、またそれを周りからも認められていることに気付く機会を計画的に設ける。また、自分の良さ、他人の良さ	○		今年度初めて実施された「SAFプログラム」等の様々な取組を通して、生徒の自己肯定感が高まっていくことを期待している。 生徒は挨拶をよくしているように思う。引き続き、気持ちのこもった、気持ちのいい挨拶を期待したい。 また、生徒が主体的に企画する活動について、今年度は多くの生徒が、町民運動会やボランティア活動に参加してくれた。地域貢献活動が進みつつあるように感じている。	①②目標値に向けて、委員会活動や挨拶運動等を通して、生徒が「自ら進んで挨拶をする」機会を増やしていく。また、気持ちのこもった挨拶ができるように、挨拶の質も高めていく。 ③④生徒の自己肯定感の向上に向けて、目標値は上回ってはいないが、8割以上の生徒が肯定的に評価している良さを認め、他者の良さを認めることができるように、集団づくりや学級経営に注力していく。	
			②教師アンケートの「自分は、生徒が自ら進んで挨拶をするよう、指導している」旨の問いに肯定的に回答している教師の割合（令和5年度：100%）	②100%	②78.6		78.6	C						
			③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（令和5年度：81%）	③85%	③94.1		110.7	A						
			④生徒アンケートの「自分のよさは、まわりの人から認められていると思う」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（令和5年度：88%）	④90%	④92.2		102.4	A						
職員が笑顔で生徒の前に立てる職場環境	○働き方改革の推進（業務改善への志向を含む）	・「組織の一員としての自覚」（組織でできることと個がすべきことの理解等）及び「相互扶助の精神」の向上 ・業務の効率化（「ムリ・ムダ・ムラ」を省く）	「学校における働き方改革アンケート」の項目「日々の業務の中で充実感を得られている」の問いに肯定的に回答している職員の割合（令和5年度：64.7%）	80%以上	73.5%		91.9	B	昨年度の数値よりも5.9%低く、尾道市立中学校の平均値よりも18.6%低い結果となり、本項目の内容が、本校の課題の一つと分析される。主体性や、学校経営への参画意識を引き出すことが、教職員のやりがいや達成感、充実感につながると考えられている。教職員の充実感を高めるために、学校経営への参画意識を引き出す機会を計画的に設定していく。	○		来年度の統合に向けた様々な委員会への出席など、先生方の負担も大きくなっていると感じている。充実感に関するアンケートの数値が下がったのは、こういう外的な要因も大きいのではないかと、先生方がどのような時に充実感を得られるのか、丁寧な分析をしたい。	日々の業務の中で、先生方がやりがいや充実感を得られるために、どのような取組ができるのか、校内研修等を通してそれぞれの意見を交流していく。	

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80
B：80≦（ほぼ達成）<100
D：<できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。